

個人投資家様向け 会社説明会

2024年12月3日

本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

J-POWERをご存じですか？



DAM-DATA

所在地：岐阜県大野郡白川村
 河川名：庄川水系庄川
 型式：ロックフィルダム
 ゲート：ローラーゲート×1門
 ドラムゲート×1門
 堤高・堤頂長：131m・405m
 総貯水容量：3億7,000万m³
 管理者：J-POWER
 本体着工/完成年：1957/1960年
詳しいデータはこちら www.jpower.co.jp/damcard/miboro.html

ランダム情報
 水没予定地にそびえ立つ樹齢約400年（当時）の2本の老桜。世界にも例がない巨木の大移植。水没地域の人々の心の拠り所となった2本の老桜は「荘川桜」と命名され、今も御母衣湖畔で花を咲かせています。

こだわり技術
 国内初の大規模ロックフィルダムであり、建設当時は「東洋のピラミッド」と謳われました。また大型機械を海外から輸入することで、建設工事を短期間で完成させました。



J-POWERはこんな会社です

コミュニケーション
ネーム

J-POWER

設立

1952年

政府出資の特殊法人
として誕生

民営化

2004年

東証第一部に上場、
完全民営化

連結従業員数

7,083名

国内設備

1,807万kW*

カーボンニュートラルへの
取組みも推進中

再生可能
エネルギー

水力・風力・地熱

国内のトップランナー、
海外でも開発

海外での実績

64カ国・地域

海外コンサルティング事業
・海外発電事業実績

連結経常利益
目標水準

900億円

2026年度時点

* 持分出力：設備出力に出資比率をかけた出力
数字は全て2024年3月末時点

国内電力事業

- ・70年の歴史の中で、全国で、様々な種類の発電設備を開発
- ・現在の持分出力は、再生可能エネルギーが**50%超**を占める
- ・青森県大間町にて原子力発電所も建設中

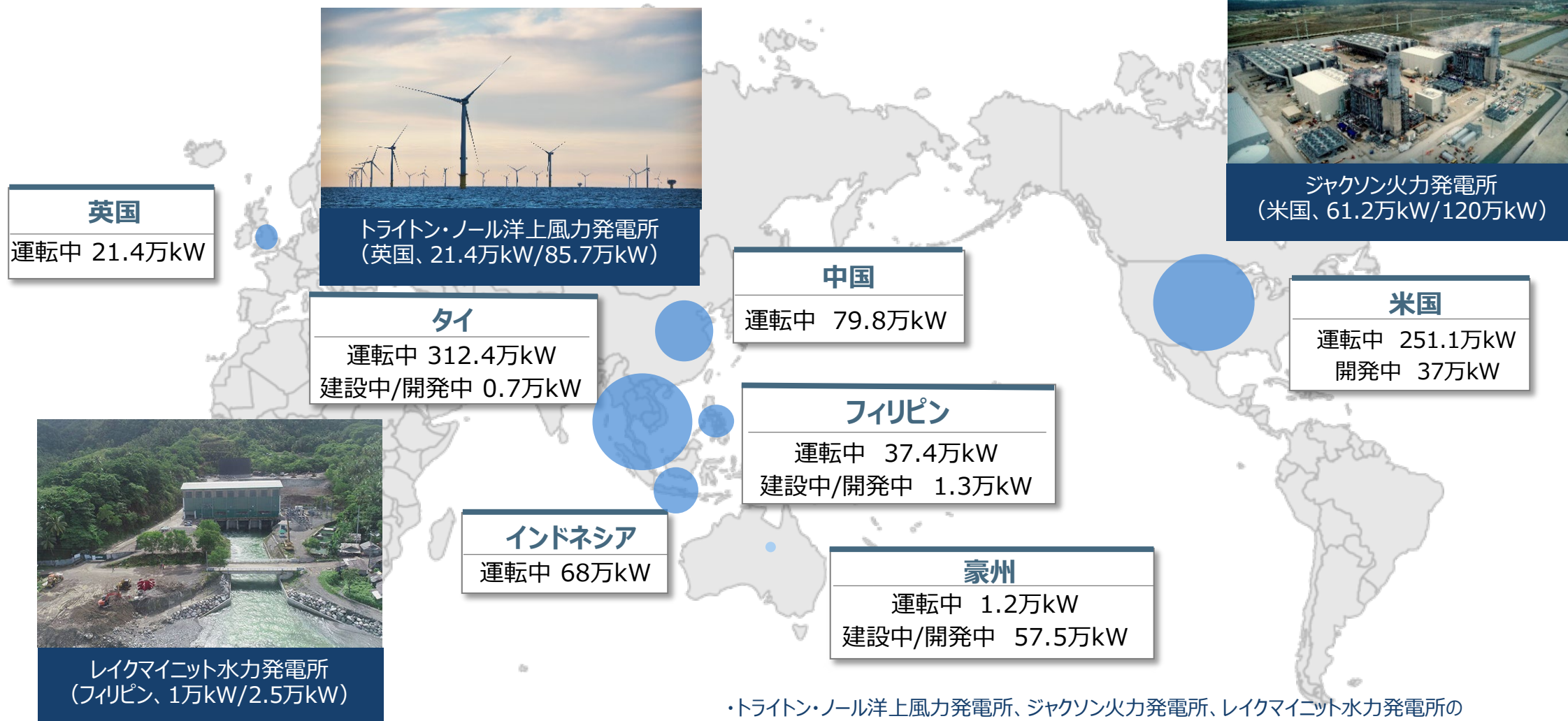
発電設備（出力）	計 98カ所	1,807.1万kW
・再生可能エネルギー	88カ所	917.7万kW
⇒水力発電所	61カ所	857.7万kW
⇒風力発電所	24カ所	56.0万kW
⇒地熱発電所	3カ所	4.0万kW
・火力発電所	9カ所	881.0万kW
・実証試験設備	1カ所	8.3万kW
・送電設備（巨長）		2,410.2km

* 出力は持分出力（設備出力に出資比率をかけた出力）を表示
（2024年3月末現在）



海外電力事業

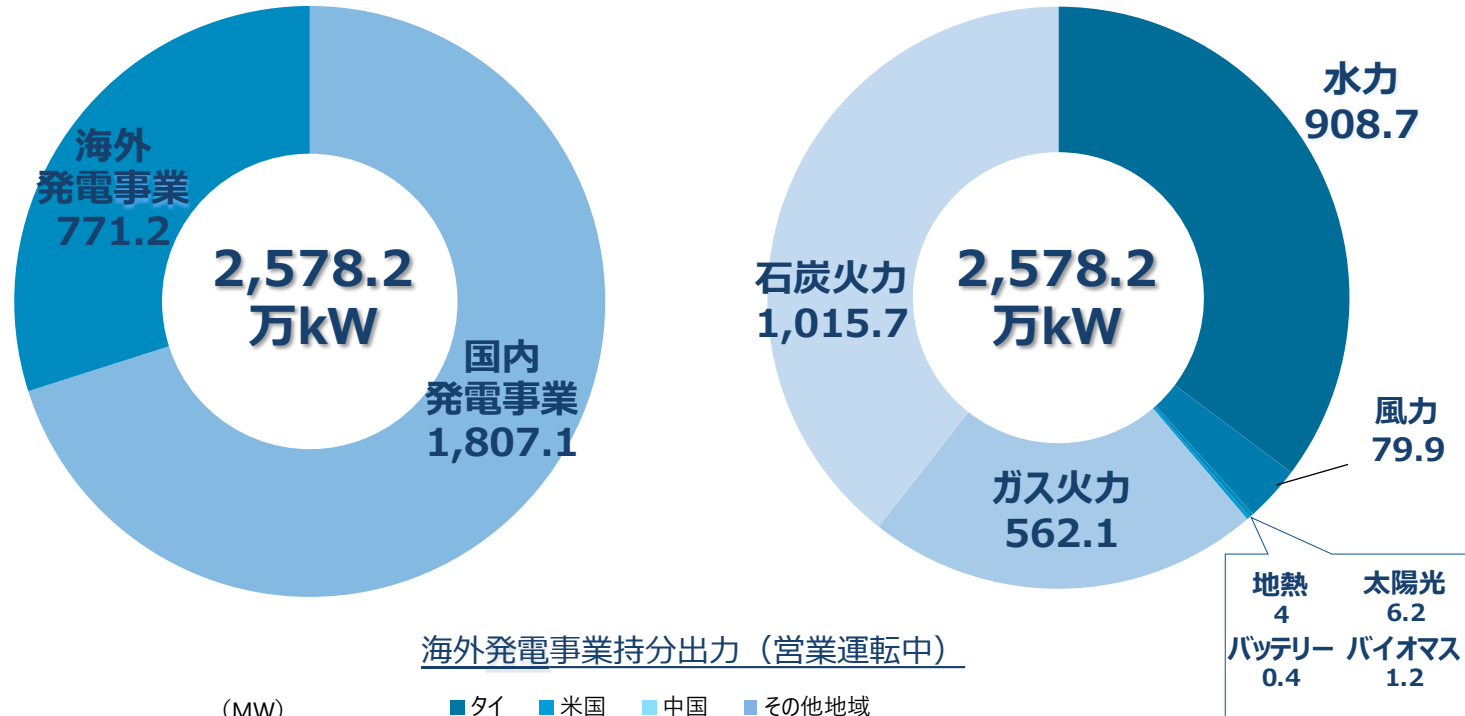
- ・7カ国37プロジェクト、持分出力合計**771**万kWの発電設備を営業運転中
- ・現在は**4**カ国**7**プロジェクトで**96**万kWの新たな設備を開発中



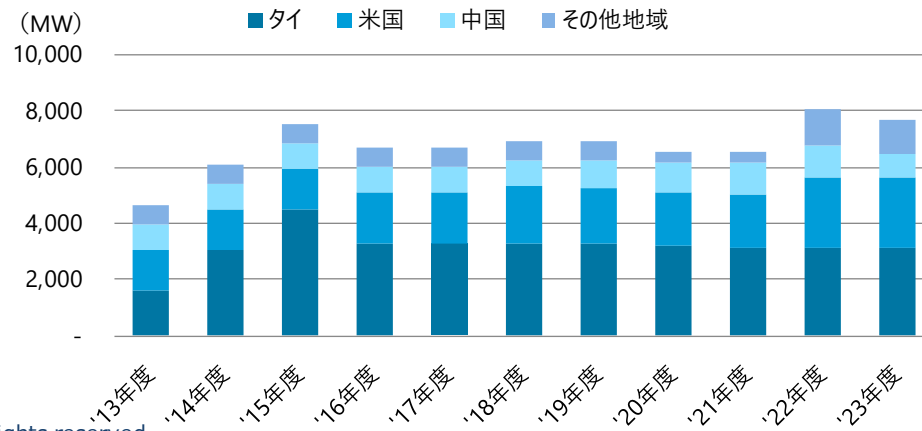
・トライトン・ノール洋上風力発電所、ジャクソン火力発電所、レイクマイニット水力発電所の表示は「持分出力/設備出力」を示す

J-POWERグループの発電設備の概要（2024年3月末時点）

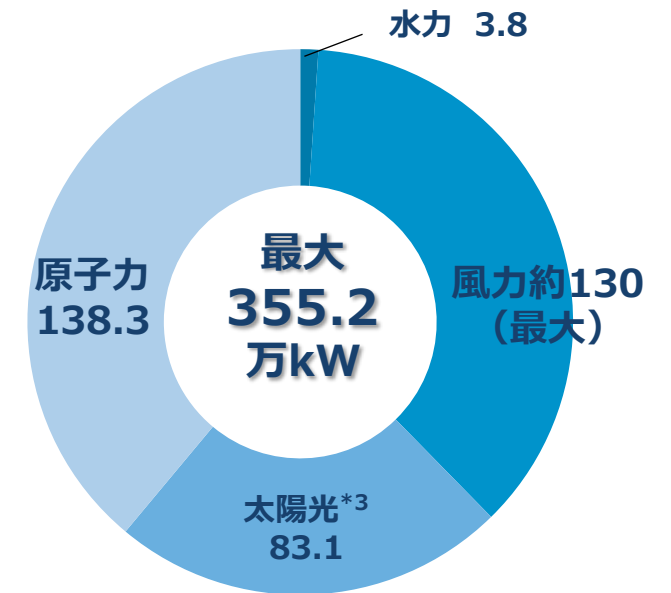
営業運転中*1



海外発電事業持分出力（営業運転中）



建設中・開発中のプロジェクト*1*2



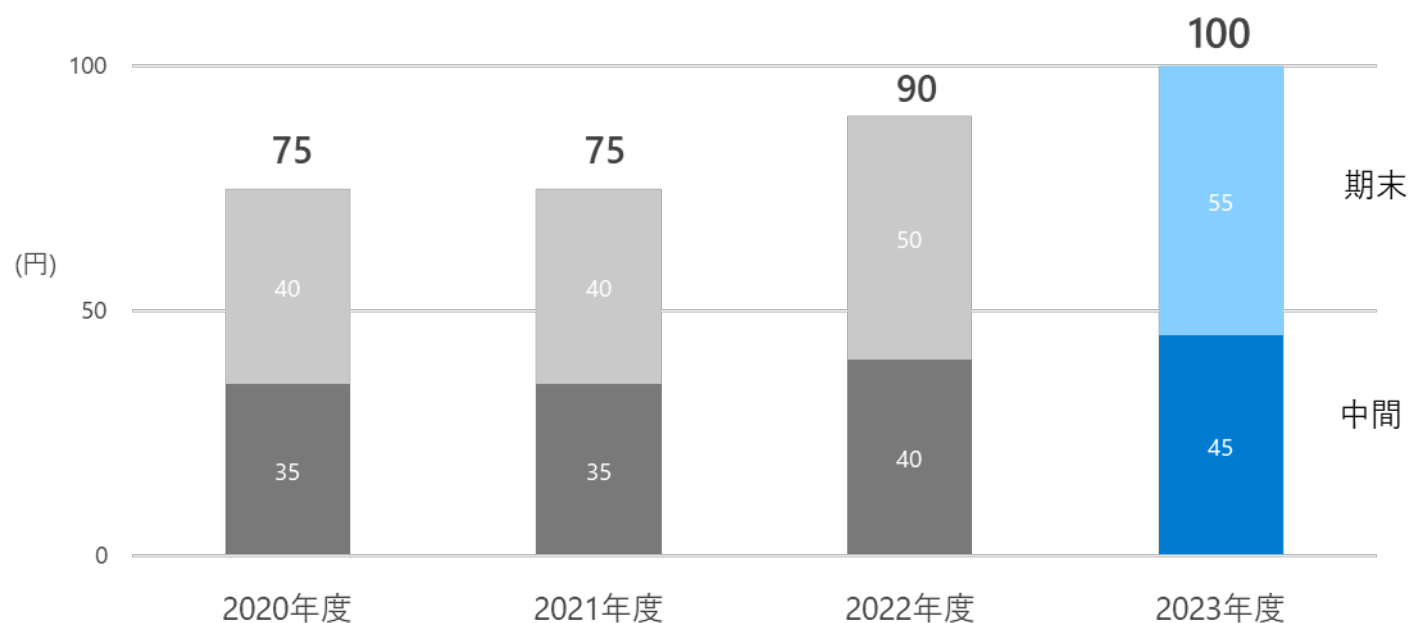
上記に加え、国内一般海域における洋上風力発電事業に係る開発準備及び地熱発電の開発調査（1地点）

- *1 出力は持分比率を考慮した持分出力
- *2 リプレースは出力増分のみを計上、出力が確定していないプロジェクトの出力は環境アセスメントでの最大出力
- *3 プリクレーク(豪州)は第1期工事分のみを反映

株主還元

- 民営化以降、安定配当を継続（減配実績なし）
- 2024年度も100円/株を下限として継続
- 2024～2026年度の3カ年合計で利益上振れした場合は追加の還元も検討

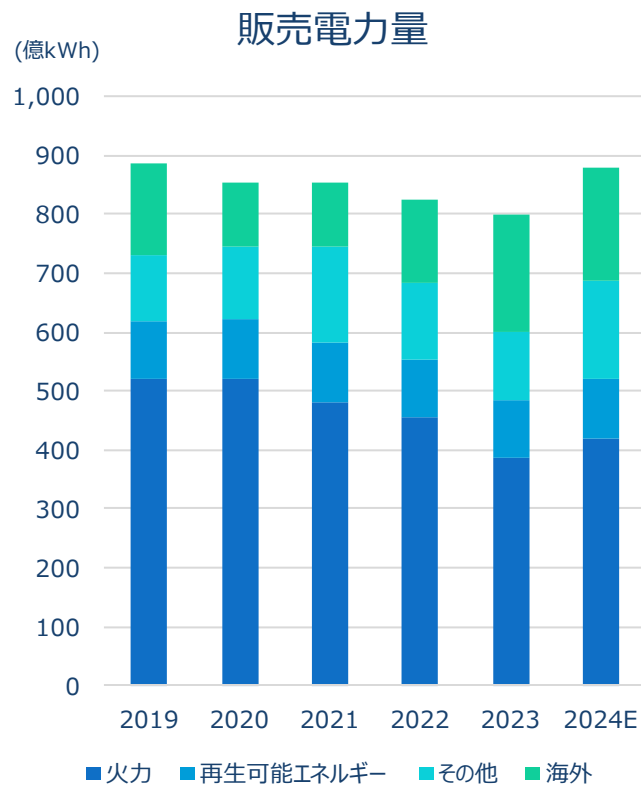
一株当たり配当金の推移



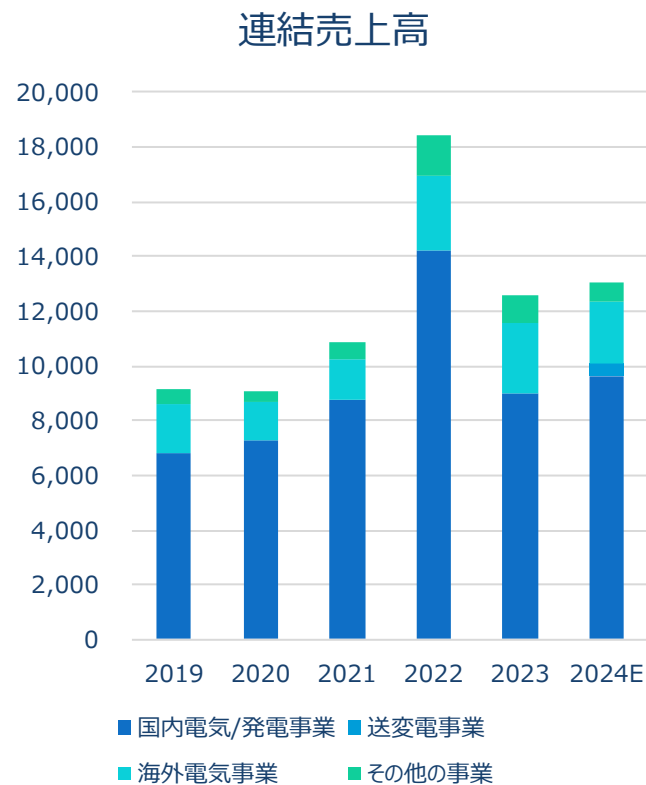
	配当		
	中間配当	期末配当	合計
2013年度	35円	35円	70円
2014年度	35円	35円	70円
2015年度	35円	35円	70円
2016年度	35円	35円	70円
2017年度	35円	40円	75円
2018年度	35円	40円	75円
2019年度	35円	40円	75円
2020年度	35円	40円	75円
2021年度	35円	40円	75円
2022年度	40円	50円	90円
2023年度	45円	55円	100円
2024年度	50円	50円 (予想)	100円 (予想)

短期的な利益変動要因を除いて 連結配当性向30%を目安に、利益水準、業績見通し、財務状況などを踏まえた上で、安定的かつ継続的な還元充実に努める

J-POWER概況 決算実績と見通し



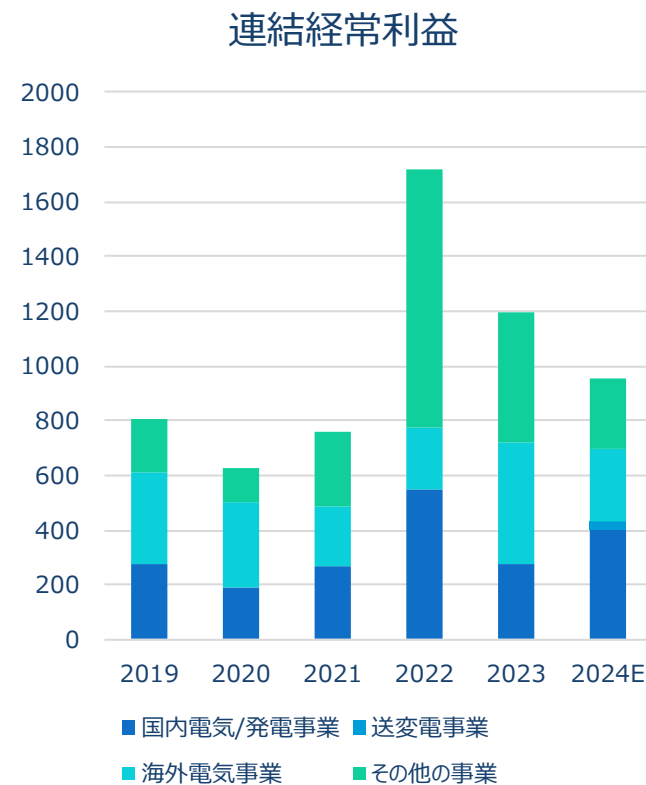
*その他には卸電力市場等から調達した電力の販売を含む。



*その他は「電力周辺関連事業」と「その他の事業」の合計値
「電力周辺関連事業」は豪州炭鉱権益事業が大半を占める

*2024年度よりセグメント変更を実施
「国内電気事業」から「送変電事業」を切り出し、「発電事業」に名称を変更
「電力周辺関連事業」の子会社の一部を「発電事業」に移動

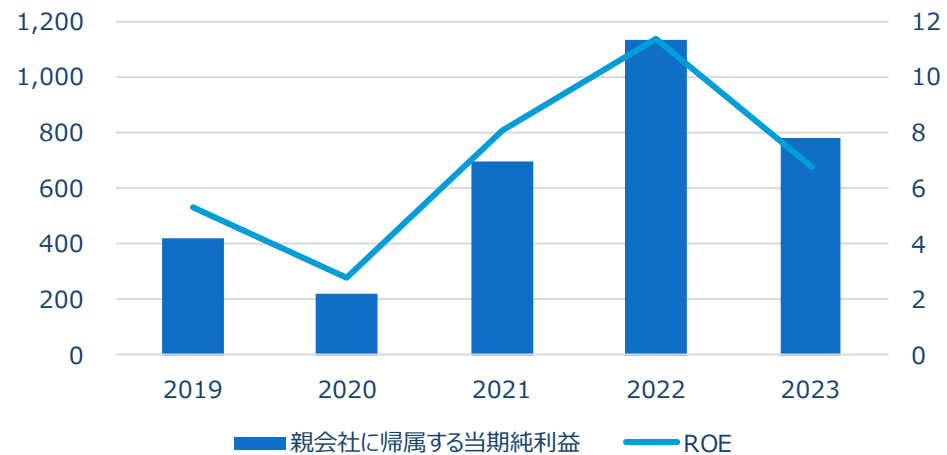
*セグメント間調整前



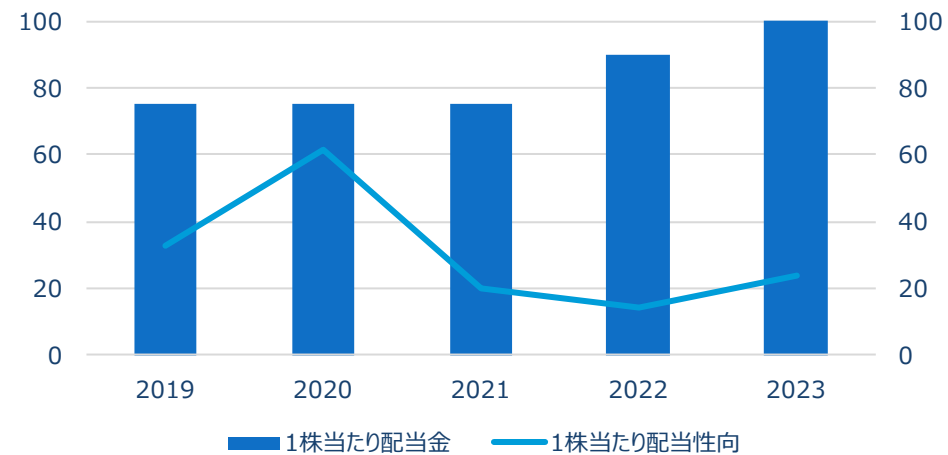
J-POWER概況 財務指標推移

2023年度：稼働資産ROIC4.5%

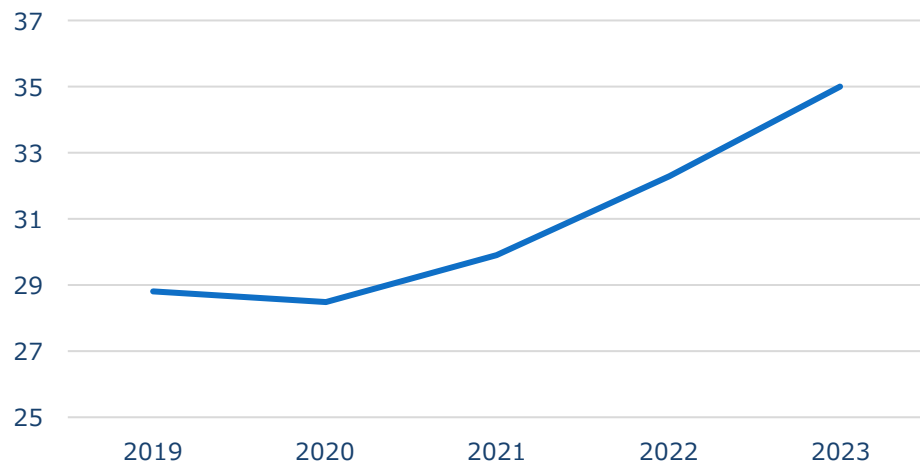
親会社に帰属する当期純利益/ROE



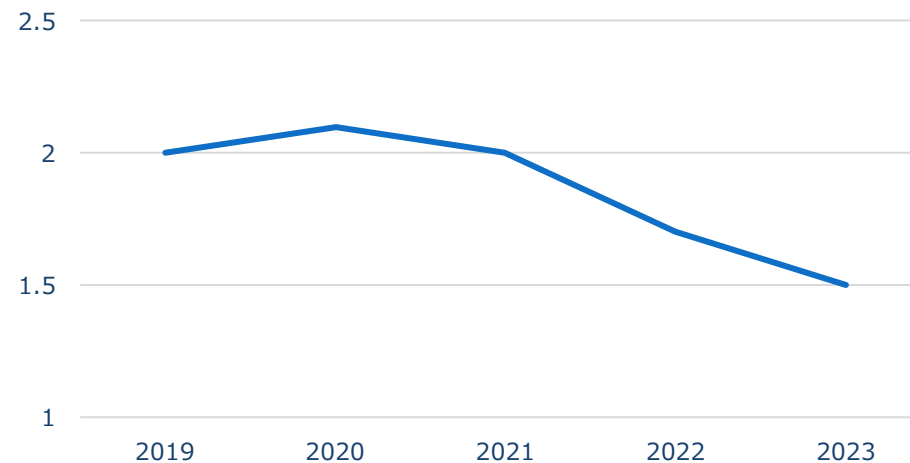
1株当たり配当金/配当性向



自己資本比率



DEレシオ



本日のご説明項目

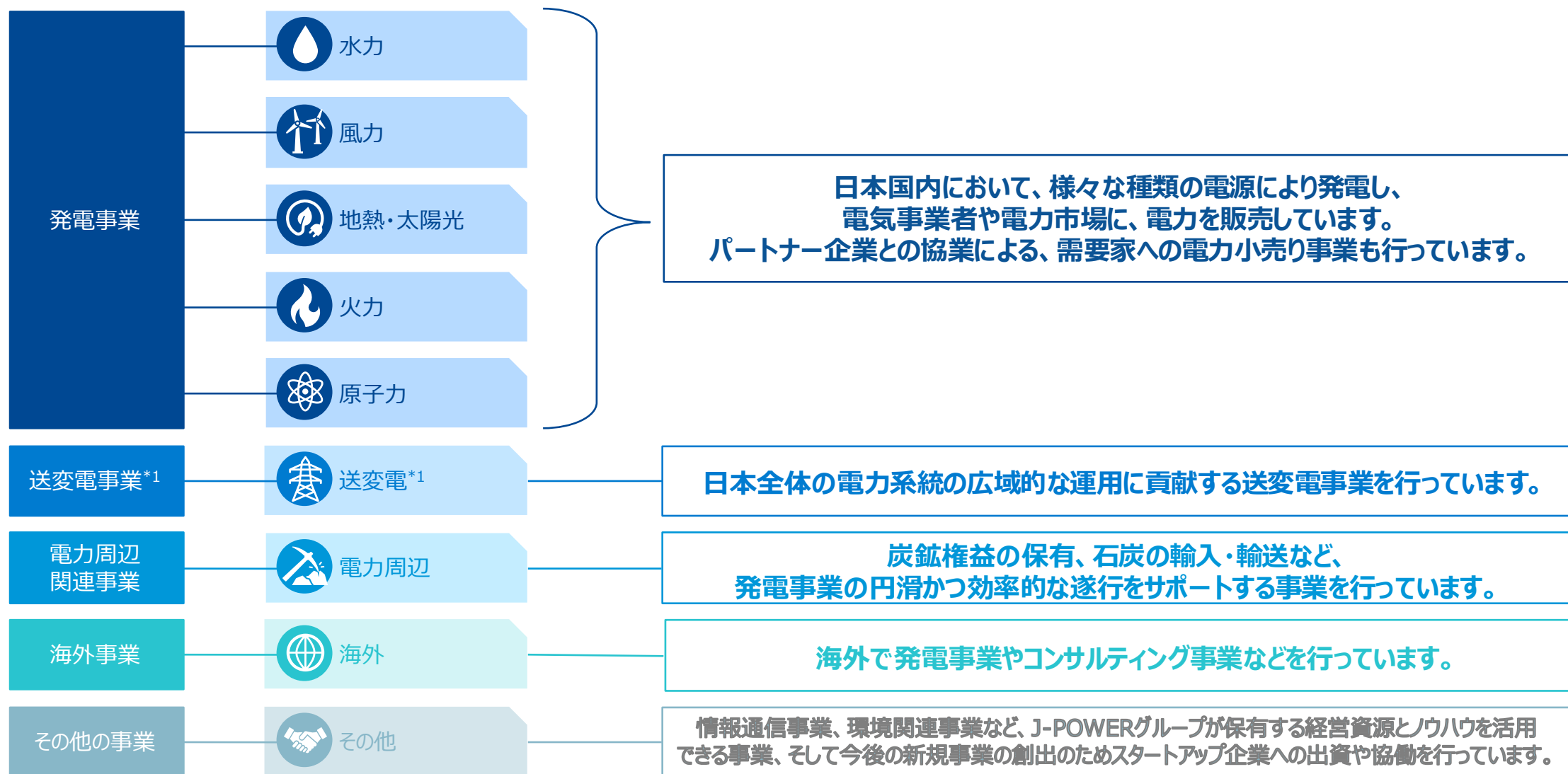
J-POWERの概要

J-POWERの事業

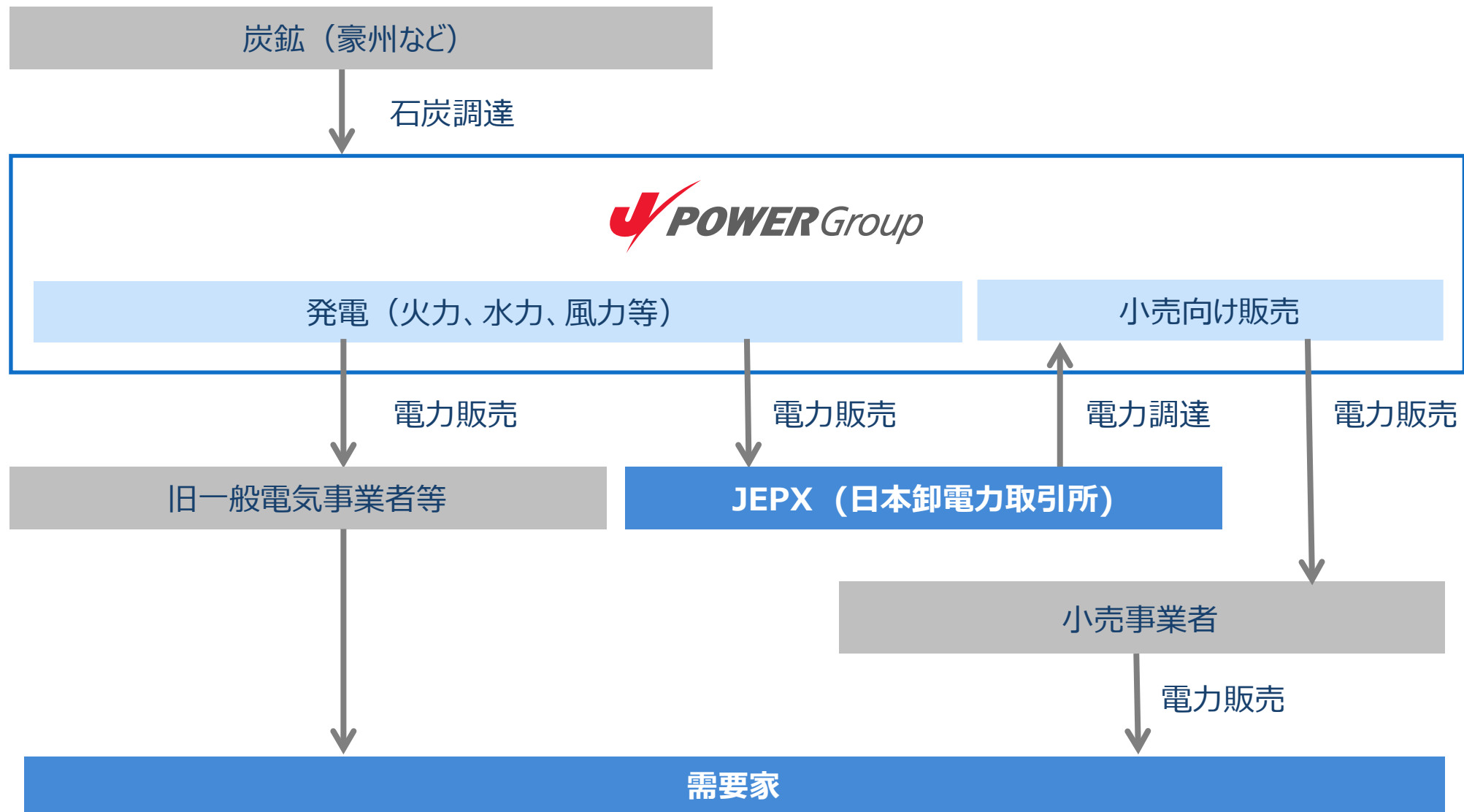
J-POWERの未来

投資家様へのご案内

当社グループの主要な事業領域

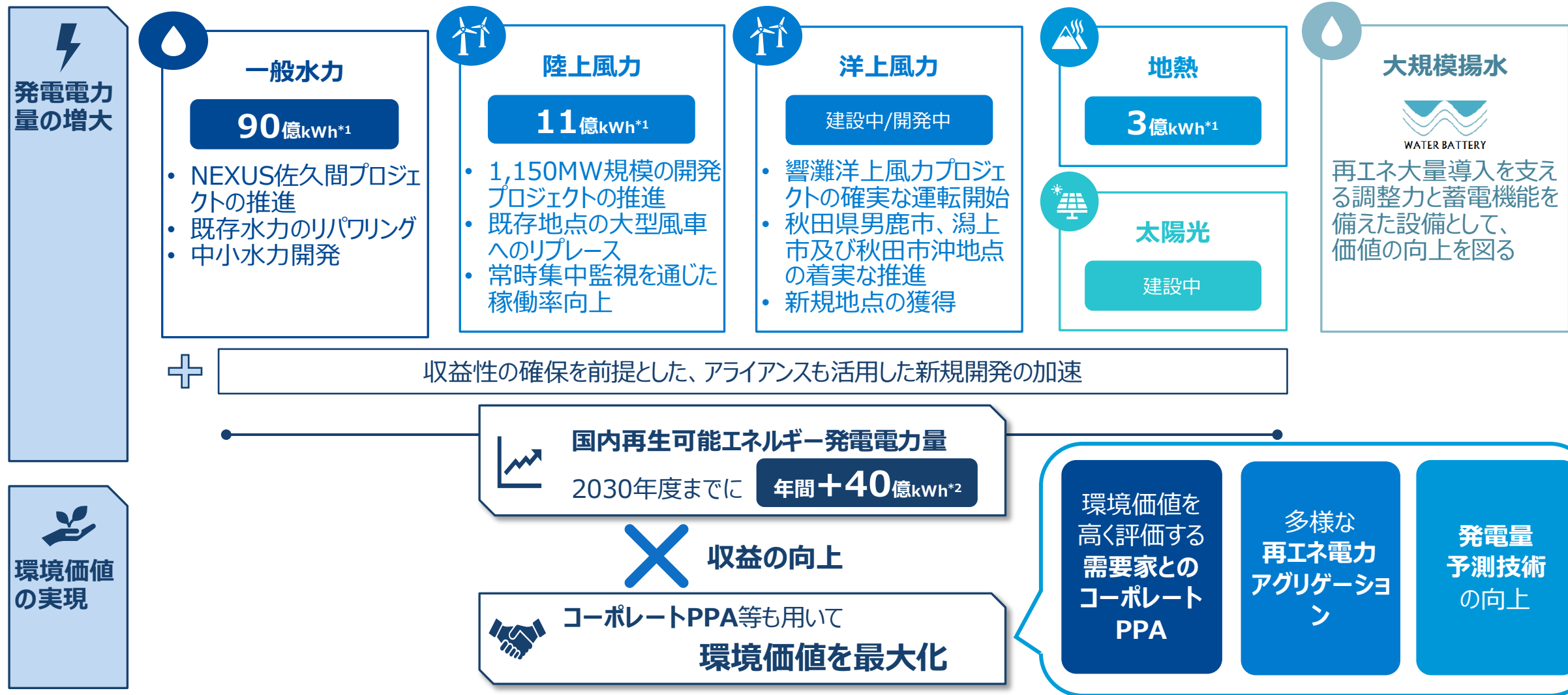


国内の主な電力販売の流れ



国内再生可能エネルギー事業

70年余の再生可能エネルギー開発の歴史を有する日本の総合トップランナーとして、これまでに築いてきた再エネ資産と知見を活かし、発電電力量の増大(+40億kWh)と環境価値の実現により、収益向上と更なる成長を目指す



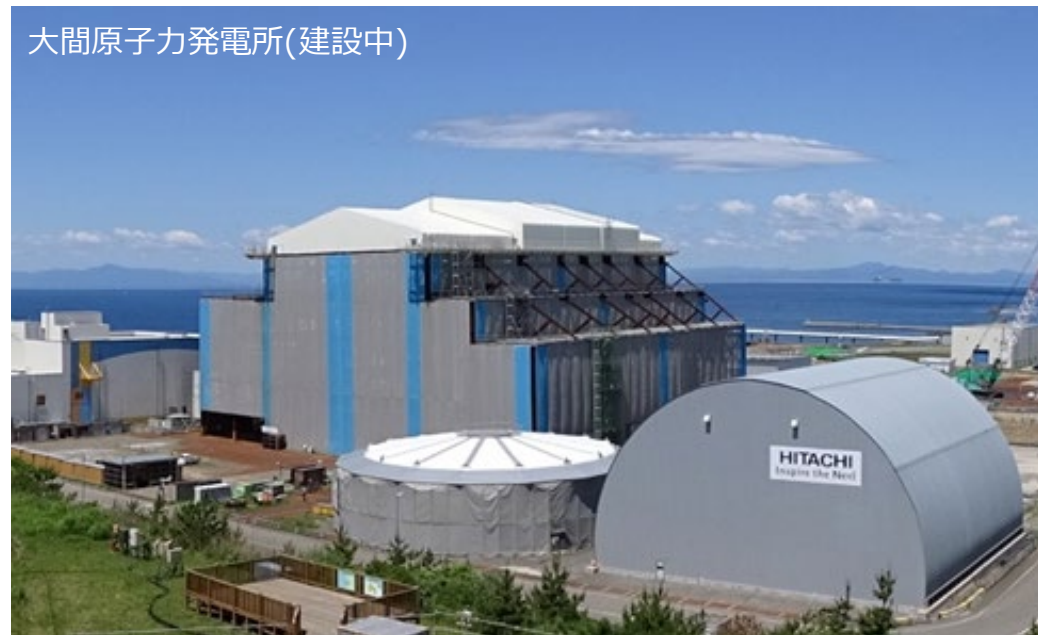
大間原子力発電所計画

- 大規模CO2フリー電源であり、原子燃料サイクルを支える発電所として、気候変動対応と日本のエネルギーセキュリティに貢献する大間原子力計画を、長期脱炭素電源オークション制度の活用も念頭におき、安全確保を最優先に推進する

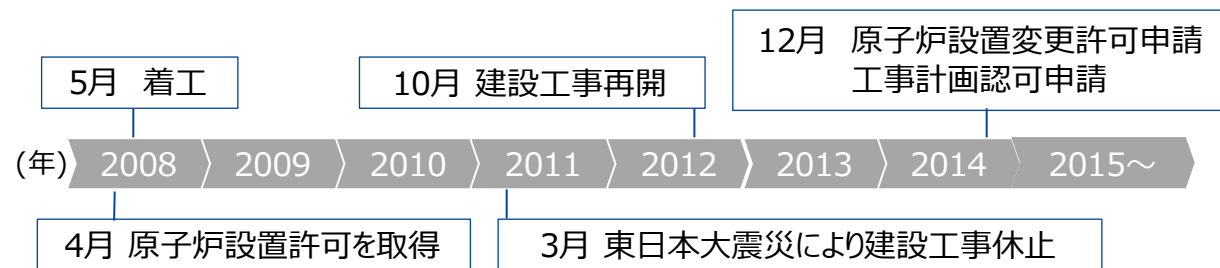
大間原子力発電所計画の概要

建設地点	青森県下北郡大間町
設備出力	1,383,000kW
原子炉型式	改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)
燃料	濃縮ウラン ウラン・プルトニウム混合酸化物
着工	2008年5月
運転開始	未定

大間原子力発電所(建設中)



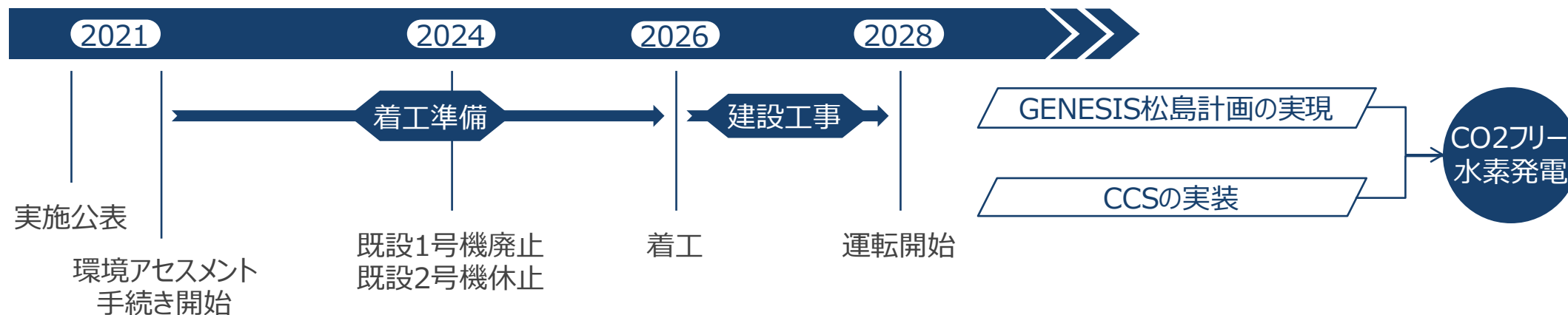
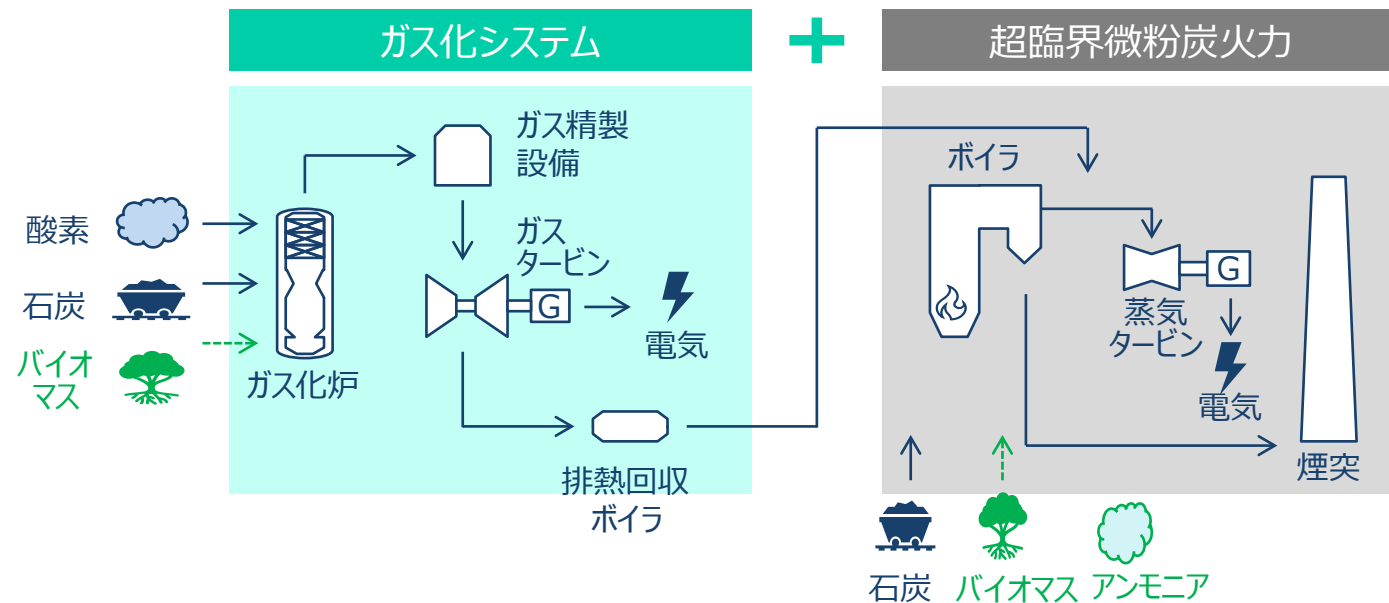
工程(実績)



GENESIS松島計画

- 大崎クールジェンプロジェクトで実証した技術の商用化による、CO2フリー水素発電の第一歩
- 既存設備にガス化設備を追設するアップサイクルを端緒に、国内におけるカーボンフリー火力の先進地を目指す

CO2フリー水素発電の第一歩



電力ネットワーク増強への貢献

- 再生可能エネルギーの大量導入を支える電力ネットワークの増強に貢献する事業機会を追求
- 自然災害の激甚化を踏まえたレジリエンス強化にも取り組みを進める

送変電設備

✓ J-POWER送変電は、各電力会社の事業エリア間を相互に連系する地域間連系設備を含めて日本全国に重要な送変電設備を保有・運営

実績	送電線	総延長約2,400km	変電所	4箇所
	交直変換所	4箇所	周波数変換所	1箇所

新佐久間周波数変換所新設等

2022年4月工事開始
2027年度運転開始予定

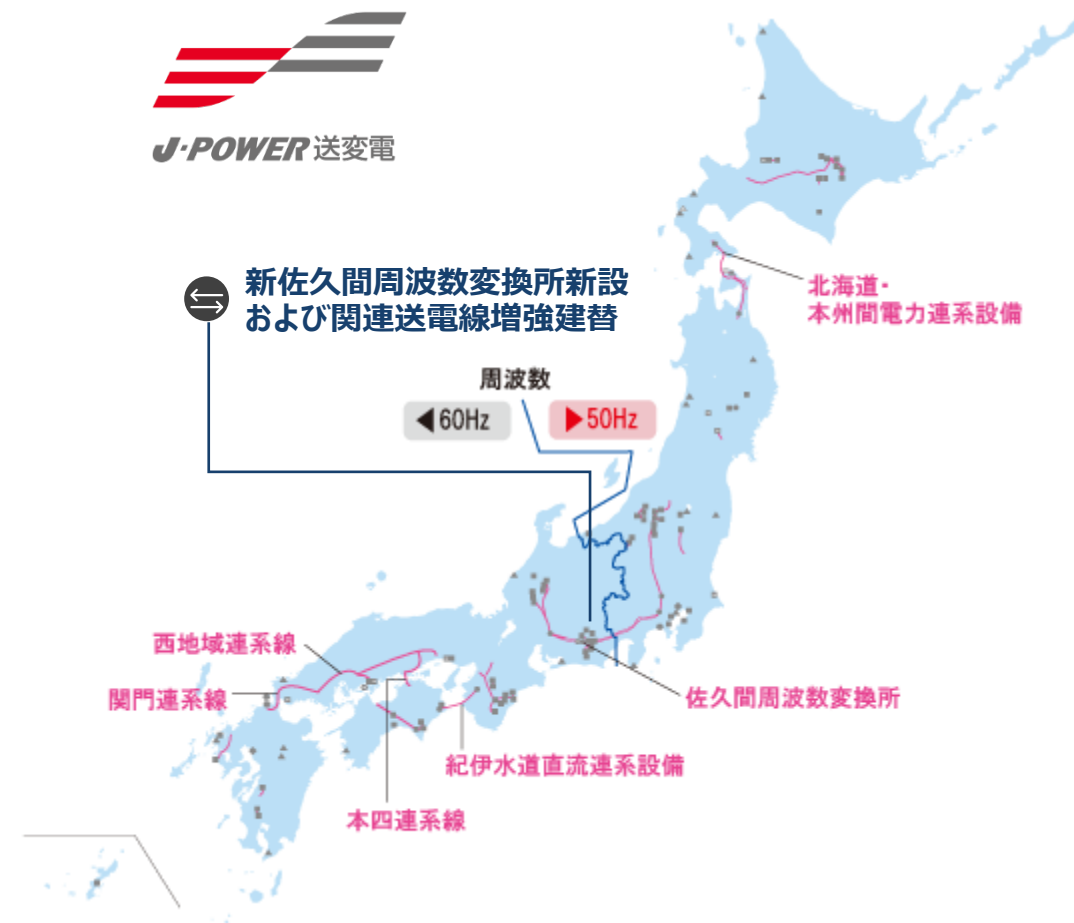
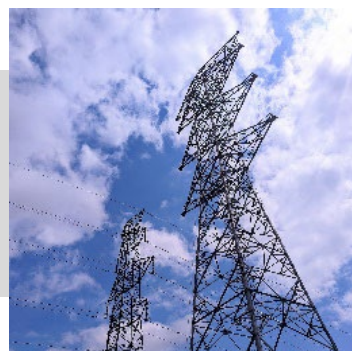
- ✓ 新佐久間周波数変換所の新設と関連送電線の増強建替を着実に推進し、50Hzの東日本と60Hzの西日本の間での電力融通能力の増強に応える
- ✓ 激甚化する自然災害へのレジリエンス強化も喫緊の課題であり、これらへの取り組みを通じて電力の安定供給にも引き続き貢献していく

建設工事中



新佐久間周波数変換所新設等

- 新佐久間周波数変換所 300,000kW
- 佐久間東幹線他 約138km



グローバルな事業拡大とJ-POWERグループの総合力

- J-POWERグループは、①プロジェクト開発力、②プロジェクト推進力、③ポートフォリオマネジメント（収益性向上とリスク管理）という総合力を強みとして、海外事業を拡大している
- グリーンフィールドからの案件開発、建設中プロジェクトの着実な推進、安定運転の継続により、開発者として収益と幅広い知見を獲得する。また、事業環境変化に応じて、リスク管理や資産入れ替えを行い、ポートフォリオを変化させることで、事業の収益性とサステナビリティを高める
- これにより獲得した収益と知見を基に、再生可能エネルギーを中心とした新たな事業案件を開発。当社のグローバルな事業拡大とカーボンニュートラル実現に貢献していく

プロジェクト開発力

- ・グリーンフィールドからの拡大
- ・先行者利益を確保

ポートフォリオマネジメント

- ・事業環境変化に応じて資産入れ替えを行いリスク管理
- ・収益性の向上、資金を次なる投資へ

プロジェクト推進力

- ・建設から運転まで着実な推進

持続的な事業拡大

強みを生かし、再生可能エネルギープロジェクトなど事業拡大に繋げる

建設中・開発中の新規プロジェクト

米国

- ・太陽光の開発（レフュージオ）



アジア地域

- ・タイでのルーフトップソーラーの建設・開発
- ・ベトナムにおけるバイオマス事業開発
- ・フィリピンでの水力発電開発（ブラノグバタン）



豪州

- ・連結子会社のGenex社による複数の再生可能エネルギープロジェクト
- ・陸上風力の開発（キッドストーン・ステージ3・ウインド）
- ・揚水発電所の建設（ケーツー・ハイドロ）
- ・太陽光・バッテリーを組み合わせたプロジェクトの開発（ブリクリーグ）



中東

- ・大規模グリーン水素/アンモニア製造事業の実行可能性調査を開始（オマーン）



本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

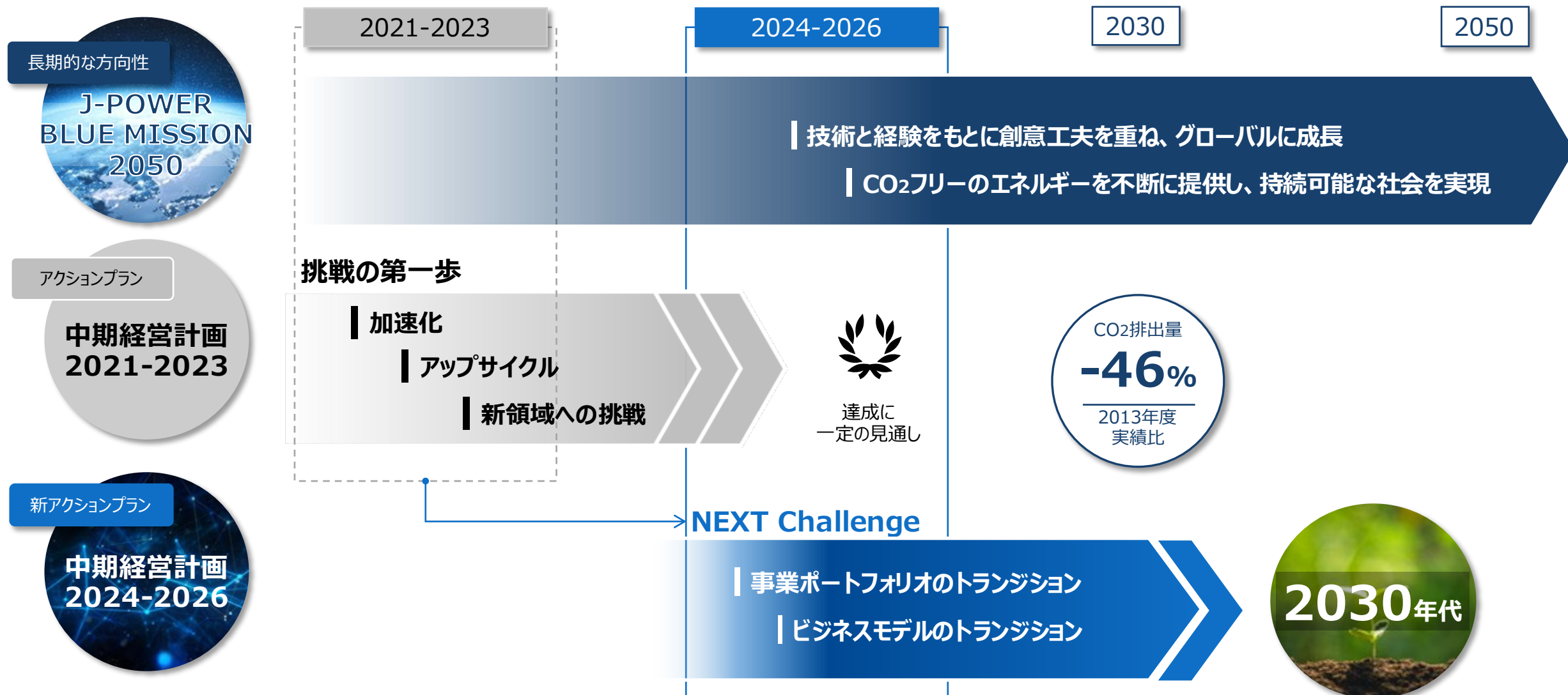
J-POWERの未来

投資家様へのご案内

中期経営計画2024-2026の位置付け

これまでの取組みを継続することにより、2030年のCO2削減目標の達成に一定の見通しを得た

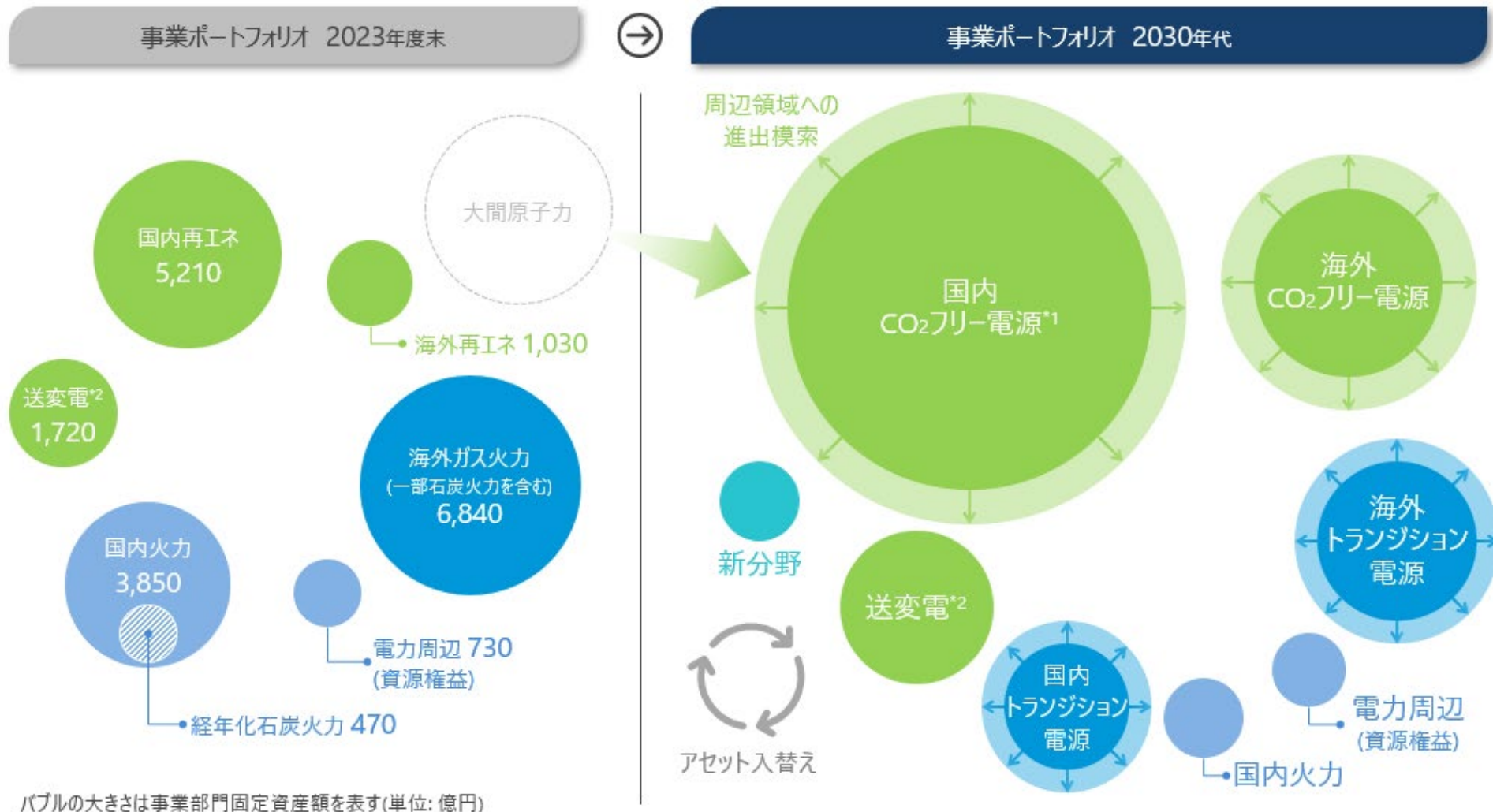
J-POWERグループは、2030年の先の世界も見据えて、更なるトランジションとカーボンニュートラルアセットの開発に挑戦する



目指す事業ポートフォリオ 2030年代

本計画は、政府のGX政策(エネルギー基本計画・地球温暖化対策・NDC等)、電力需給状況、電力制度設計、産業発展の進捗等の前提条件に応じて随時更新・見直し・詳細化する

2030年以降のカーボンニュートラル化の加速に向けて、国内火力のトランジションを進め、資本効率も意識しながら国内外でカーボンニュートラルアセットが中心となる事業ポートフォリオへの変換を目指す



カーボンニュートラルアセット

トランジションアセット

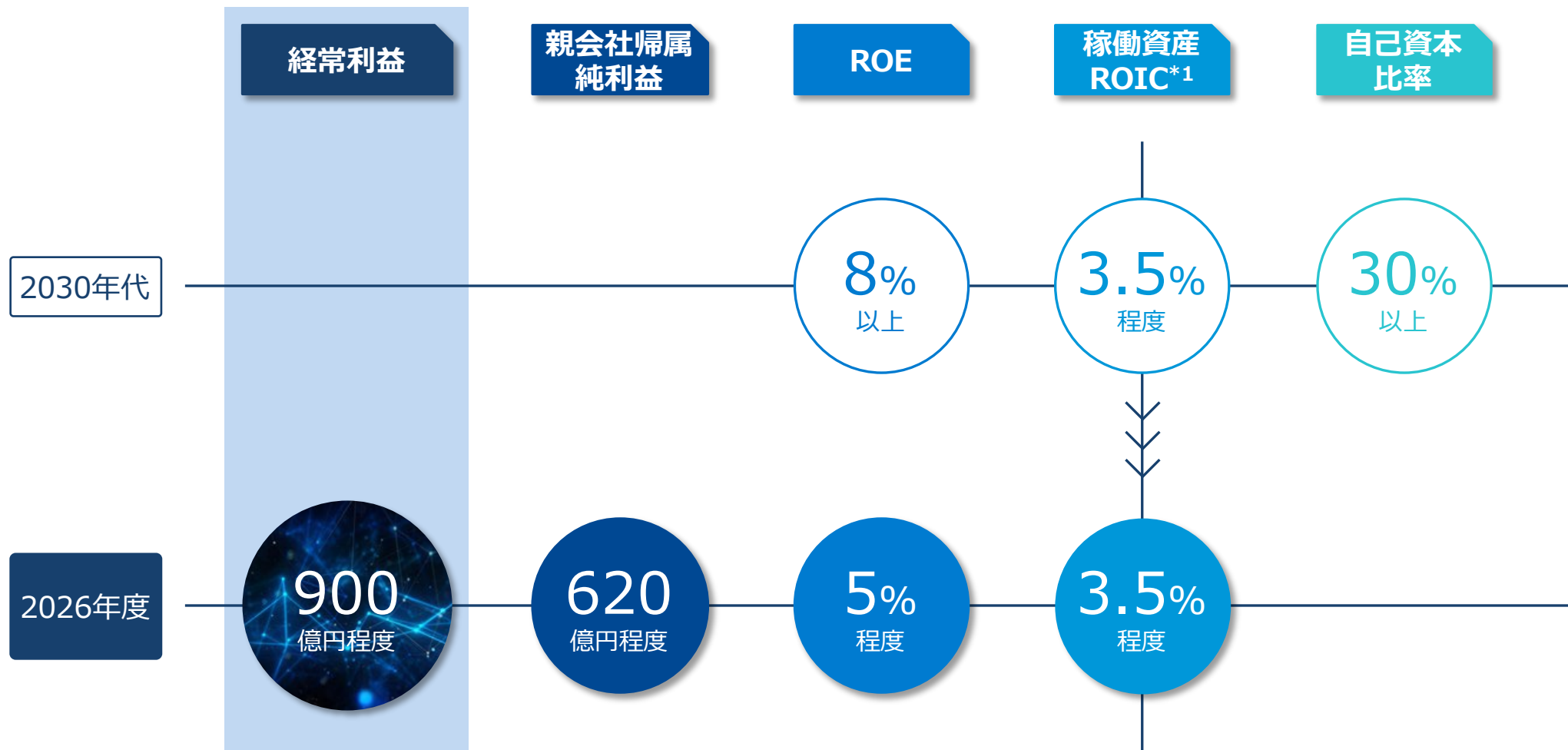
石炭アセット

非線働アセット

経営目標

2030年の先の世界も見据えた、更なるトランジションとカーボンニュートラルアセットの開発に挑戦

非稼働資産比率10%程度を前提に、2030年代のROE8%以上の達成に必要な稼働資産のROIC水準を3.5%程度と設定
2026年度から稼働資産ROIC 3.5%程度を目指しながら、建設仮勘定等の稼働資産化に取り組む



キャピタル・アロケーション 2024-2026

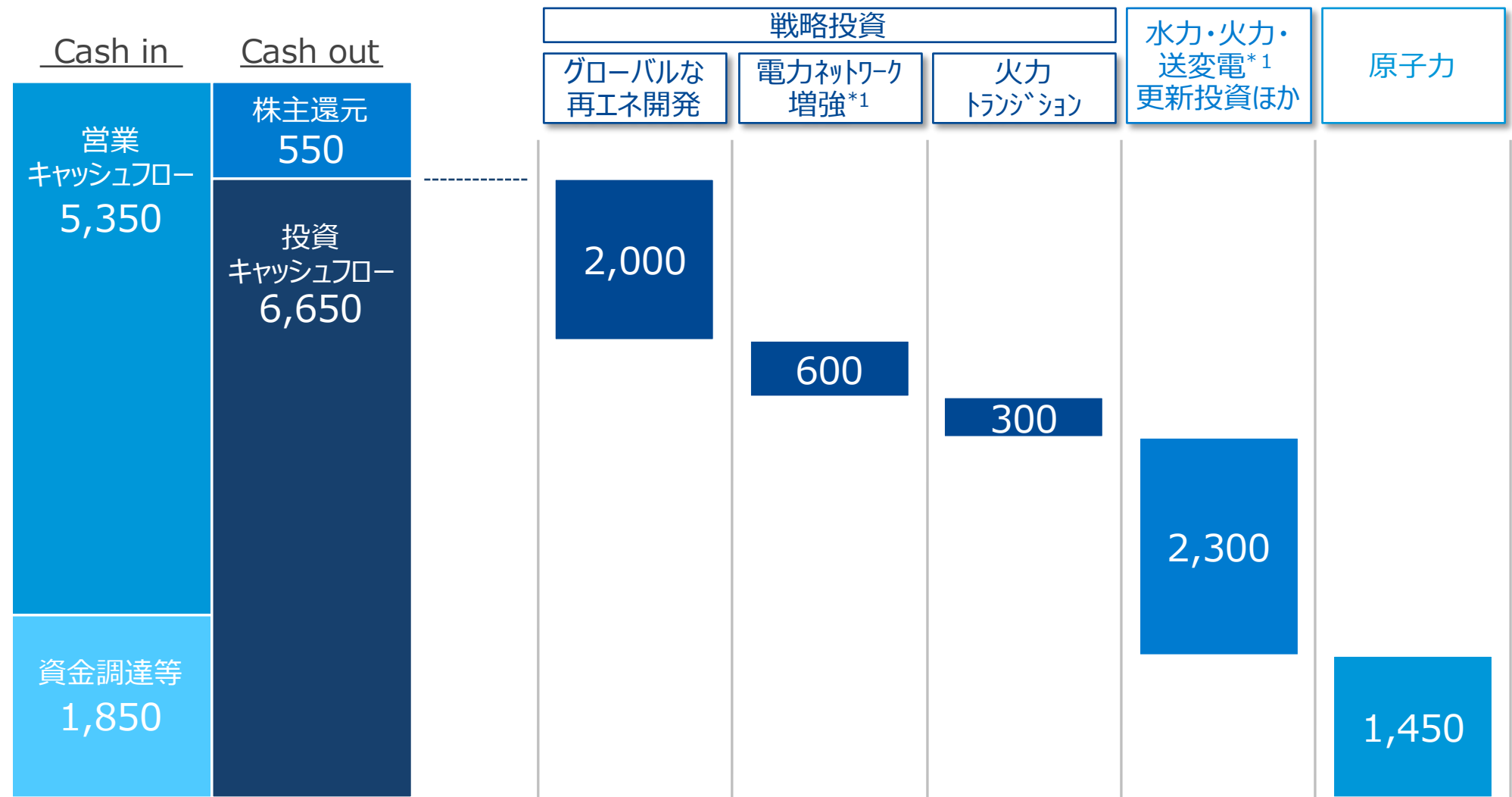
2030年度までの戦略投資7,000億円を念頭に、3年間で約3,000億円の戦略投資を計画

配分計画 2024-2026 億円



投資キャッシュフロー内訳

億円



*1 電力ネットワークの増強/送変電事業はJ-POWER送変電の担当

BLUE MISSION 2050 ロードマップ

本計画は、政府のGX政策(エネルギー基本計画・地球温暖化対策・NDC等)、電力需給状況、電力制度設計、産業発展の進捗等の前提条件に応じて随時更新・見直し・詳細化する

CO₂削減目標

-920^{*1}万t

-46%^{*1}

-2,250万t
J-POWER国内発電事業
CO₂排出量

実質排出 0

カーボンニュートラルの実現

J-POWER国内発電事業CO₂排出量

		2025	2030	2040	2050
CO ₂ フリー電源の拡大	再生可能エネルギー	国内で年間発電電力量40億kWh増大 グローバルに新規開発		さらなる新規開発、既存地点のアップサイクル、 既存資産の最大限の活用	
	原子力	大間原子力発電所建設・運転開始			
電源のゼロエミッション化	国内石炭火力	老朽化したものから順次フェードアウト 低炭素化の取組み (バイオマス混焼の拡大、アンモニア混焼の導入等)			
	CCS	事業環境の整備、 設備の設計・建設		圧入・貯留	
	水素発電	国内での実証試験		アップサイクル (既存資産へのガス化炉追加)	
	燃料製造 (CO ₂ フリー水素)	海外での事業化検討		他産業での利活用	
電力ネットワーク	安定化	水力、アップサイクル(既存資産へのガス化炉追加)による負荷追従性向上、分散型エネルギーサービスの拡大			
	増強 ^{*2}	新佐久間周波数変換所等 増強完了		電力ネットワーク増強への貢献	

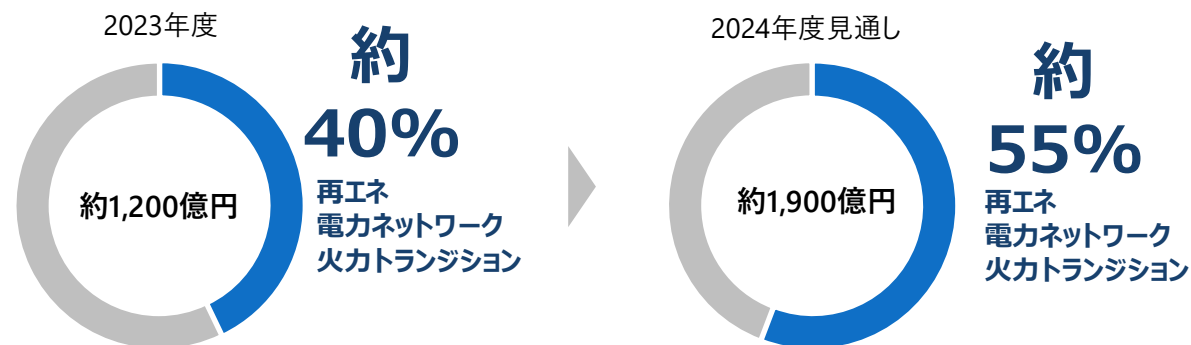
トランジションに向けた投資

投資実績と見通し 投資キャッシュフロー

BLUE MISSION 2050が描いたカーボンニュートラル社会へ向けて3つの取組みを進める

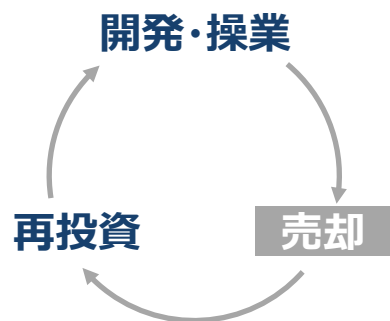
* 下記数値は現時点の見通し、今後の状況に応じて変化
* 投資CFの内、投融資の回収については下記グラフには含めず

CO ₂ フリー電源の拡大	再生可能エネルギー
	原子力
電源のゼロエミッション化	CO ₂ フリー水素発電
	CO ₂ フリー水素製造
電力ネットワーク	電力ネットワーク安定化
	電力ネットワーク増強

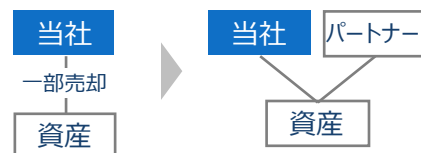


資本効率改善に向けた取組み

- 資産の長期保有のみならず、資産の売却と売却資金を基にした新規プロジェクトへの再投資など適宜事業ポートフォリオの入替えを行い、資本効率の改善に取り組む
- またROIC導入を通じて、事業別に資本効率を計測し、適切な改善策を講じる仕組みの構築を行う



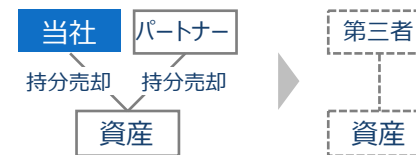
開発・操業 → 一部売却・操業



米国ジャクソン火力発電所

- 開発したガス火力発電所の一部権益を売却し、開発者利益を獲得
- 一部売却後も操業に主体的に関与

開発・操業 → 全部売却



米国ウォートン地点

- 開発を仕上げた太陽光発電所の持分権益の全てを売却し、開発者利益を獲得
- 米国グリーンカントリー発電所
 - 持分法適用会社傘下にあるガス火力発電所の全権益売却を決定

開発・操業 → 撤退



国内3火力(市原・新港・糸魚川)ほか

- 設備の経年化や競争力を踏まえ、第三者に権益譲渡して撤退

本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

株主様とのコミュニケーション

会員組織 「J-POWER Shares」



J-POWER Shares

2021年 株主通信

1. はじめに
2. 株主様へ
3. 株主様へ

J-POWER Sharesからのお知らせ

2022.11.07 J-POWER Shares イベントレポート (富良野地熱発電所バーチャル施設見学会) を公開しました。

2022.11.02 J-POWER Shares Sharesのらびを更新しました。

2022.10.31 J-POWER Shares Boardを更新しました。

2022.10.14 J-POWER Shares 報告書 (2022年報) を公開しました。

2022.09.30 J-POWER Shares IRBoardを更新しました。

2022.09.16 J-POWER Shares 「EPOCH MAKER」 争点編を公開しました。

イベント情報

現在開催中のイベントはありません。

単元株保有株主様(100株以上)向け、登録会員限定の記事・動画配信やメールサービス



現地にご案内するリアル見学会、Web上でのバーチャル見学会などを実施



単元株保有株主様(100株以上、3月末時点)で、アンケートに回答いただいた方に進呈

<ご注意>

本資料は、本資料公表日における当社に関する公開情報、及び、当社が本資料公表日において入手している公開情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従って、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なることになる可能性があることをご承知おきください。



電源開発株式会社

<https://www.jpowers.co.jp/>